

1 自己評価及び外部評価結果

【グループホームめずらハウスⅠ】

事業所番号	4491100048		
法人名	社会福祉法人芽豆羅の里		
事業所名	グループホームめずらハウスⅠ		
所在地	大分県宇佐市大字下時枝491-1		
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき、ご入居者一人ひとりが自分らしく過ごしていただけるよう、ご本人の気持ちに寄り添ったケアを目指している。認知症に関わる研修には積極的に参加し、認知症を理解し、認知症の進行を防止するためにできる事を、常にチームで考え取り組んでいる。また、ご入居者ご自身の不安や困りごとをチームで解決できるよう、情報共有やケアの統一に努めている。便秘が様々な体調不良に関係していることを理解し、水分ゼリーの提供による水分摂取量の増量や、毎日の運動、腹部マッサージ、その人にあった飲み物の提供(牛乳、ヨーグルトなど)をご家族の協力の上行い、自然排便に繋がる工夫をしている。健康管理面では、年2回の定期健康診断や月1回の協力医機関(宗像医院)の往診等で、疾病の早期発見、重症化を防ぐ工夫をしている。すぐに相談できる協力医の宗像医院との連携体制は当グループホームの強みである。日頃から離れて暮らしているご家族に安心していただけるよう、Instagramで日常の様子を動画配信している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者のその人らしい生活が送れるように日々支援に努めている。
 ・利用者は盛り付け・配膳や掃除など出来る事は積極的に参加して、生き活きとした生活を送っている。
 ・協力医との連携で24時間いつでも対応でき医療に関して安心して暮らすことが出来る。
 ・職員間の信頼関係は良く、利用者のために全員で取り組んでいるのが伺える。
 ・行事等様子をInstagramにあげて家族に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示、職員会議で唱和するなどして共有している。ご入居者のケアについて困った時は、理念を念頭に置き実践につなげている。	玄関などに理念を掲示しており常に意識しながら支援に当たっている。その人らしく生活できるよう寄り添った支援の実現に職員全員で取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。コロナ禍の影響で近年はあまり参加できていないが、地域清掃、お接待、花祭り、こども園の運動会の見学など、感染状況をみながら、少しずつ参加する機会を増やしている。今後、地域の勉強会にも参加予定。	お接待に参加したり、こども園の運動会の練習を見に行ったりしている。善光寺の花祭りでは甘茶を頂いたり、施設の前を通るこども園の園児が手を振ったり少しずつ交流が増えて来ている。地区にはめずら新聞を配り、地域に根差した活動をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にめずら新聞を配布し、認知症の施設としてグループホームを紹介している。認知症について地域の方々に少しでも理解して頂き、お力になれるよう、進んで研修を受講している。(認知症リーダー研修修了者2名(現在1名受講中)認知症実践研修修了者3名)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に開催し、日常のご様子や現状を報告している。コロナ禍で暫く書面開催だったが、昨年の7月より対面で開催している。写真をとりいれ表情や生活が伝わりやすくしている。	対面での開催である。家族も出席している。事業所の様子などを知らせ出席者から意見をもらっている。家族からは直接面会を再開してほしいという要望が出るが、まだコロナが安心できないので慎重になっている。Instagramで動画の配信しており、家族から喜ばれている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当者に日頃から連絡を取り、相談している。新しい情報やアドバイス等、協力関係を築き、ご入居者のケアサービス向上に努めている。	わからないことがあれば直ぐに電話をして問い合わせたり、月1回は市に相談などで出かけている。運営推進会議の進め方がわからずアドバイスをもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、ご入居者の安全を確保するために施錠している。身体拘束については、職員会議、研修、日常のケアを通して説明し、管理者が勤務の時は施錠をしないようにしている。施錠することのデメリットを伝えている。ご入居者の希望があれば都度一緒に外出している。ベッド柵についてもケア会議の中で意見を出し合い身体拘束とならないケアを行っている。	離床による転倒などを防ぐために家族と相談してセンサーを設置している利用者がいる。ポータブルトイレに鈴を付けて転倒に注意している。行動は自由で出て行こうとする利用者がいれば一緒に話をしながらついて歩く。スピーチロックには気を付けている。事故が起きないよう安全について研修を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽チェックリストの活用、そのチェックリストを使って面談や研修を行い虐待防止について意識の向上を図っている。認知症の施設において1人夜勤なので職員のストレス対策にも気を付けている。勤務体制の工夫や職員が悩みを話せる環境作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成している。権利擁護の内部研修を年間計画に取り入れ、実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に重要事項説明書を用いて説明を行い、新規入居の契約時には、ご入居者とそのご家族に説明を行い、同意を得ている。改定事項があった場合、運営推進会議を通して説明を行い、参加されないご家族には、口頭での説明をし同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのご意見やご要望があった場合、運営推進会議を通して参加者の皆様と情報共有している。運営推進会議でのご意見やご要望などを運営に反映している。	面会時や電話で要望などを聞いている。推進会議に出席した時にも意見が出る。利用者それぞれにあった排泄用パッドを職員みんなで検討し、使用方法を変更するなどして、コスト削減に取り組んでいる。直接面会をしたいという希望があるが、まだ実現出来ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務や職員会議を通して職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。	日頃から希望などを聞いたり、面談でも相談に乗っている。職員みんなが協力的で有休も希望に沿ったシフトが組まれている。休憩も取れており職員に寄り添った体制で業務が行われているので、利用者の安定につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に沿った勤務体制になっている。職員の理解があり子育て世代はとて働きやすい環境になっている。職員個々の勤務状況や心身の状況など把握し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を含め積極的に研修に参加する環境作りを行っている。内部研修では、職員が資料を作ったり、外部研修で学んだことを他の職員に伝える復命研修を行うなど、積極性がみられる。また、それぞれが得意分野を活かし、苦手なことも克服しようとしている姿がみられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会(認知症リーダー研修の受講生や講師など)で知り合った仲間に、LINE等を通して交流できている。法人リーダー会では各事業が参加し月一回研修会を行っている。コロナ禍の影響で他施設との積極的な交流はできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の事を知るために、入所時から1か月間は生活記録表とは別に行動記録表を作成、その都度出現する不安、困っていることに対して全職員が把握し、解決できるよう努めている。ケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの際や、面接調査の際にご家族から、困りごとや不安、ご要望を聞き、サービス計画書に反映している。いつでも相談できるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のご要望にお応えするために、法人内での情報共有を行い、その方にあった支援を見極めている。状況の変化に応じてご本人やご家族の同意の上で他事業所のサービスに繋げることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者のできないことは職員が手伝い、職員ができないことをご利用様から教えていただき、支え合う関係を築けている。裁縫、洗濯、生け花などご入居者から学ぶことが多い。又、感謝の気持ちをお伝えしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策で面会制限があるため、ご家族の事を忘れないように毎日のケアの中でご家族の話をしたり、写真を見て頂いたり、Instagramを活用し、動画配信を行うなどご家族との接触の機会を多く設けるようにしている。面会等のご家族の支えと日常での係わりを重視した施設のケアにより、家庭の延長としてのグループホームの役割を果たすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会を通して関係が途切れないよう支援している。感染対策で、外出支援に制限はあるが、馴染みの場所を散歩したり、ドライブしたり、入所される前に毎月通っていた店に行くことなど継続を意識している。今後、感染対応が解除されれば馴染みの美容室や、馴染みの人に会いに行くことを計画している。	自宅へドライブに出掛けたり、近くのコンビニに買い物に出かける事もある。美容室が定期的に訪問してくれて新しい馴染みとなっている。やはり行きつけの美容室がいいと言う利用者もいるが、感染状況が落ち着けば再開する方針である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を把握し、食事やレクリエーション時の席など考慮している。自立した方はご自分から気の合う方の側へ行き一緒に生活ができている。高齢で休息する時間が必要な方を除いては、孤立せずにご入居者同士で関わり合っている。コミュニケーションをとるのが難しい方には、職員が間に入ることで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、他事業所の職員を通して経過のフォローや面会でこれまでの関係を大切にしている。ご家族からのご要望があれば訪問し相談や支援に努めている。ご家族に外出先でお会いした際にはお話をすることもよくあります。協力医療機関でご逝去された際は、エンゼルケアのお手伝いをさせていただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の嗜好や、趣味、生活習慣など今までの生活に近づけられるよう思いに沿ったケアに努めている。ご本人にとってどうなのか？を考え検討している。	フェースシートで利用者の生活歴や趣味嗜好を把握している。日常の会話の中で感じ取っている。得た情報を職員間で会議やラインで話し合い情報を共有している。利用者の好きな食べ物や家族からの差し入れなどを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントを取り情報共有している。日々の会話や活動の中からも情報収集し、記録に残したり、職員会議で情報共有するなど、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録や、医療連携ノート、業務日誌での細かい記録や、職員会議やモニタリングを通して全職員に情報共有し把握に努めている。改善が必要な際は検討協議し、実践につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催しているモニタリングでは居室担当者を中心に、職員の日常生活での気づきや情報を基に話し合いを行っている。ご家族からのご意見も反映し、介護計画を作成している。ご入居者一人ひとりの困りごとの解決を意識して介護に当たっている。	職員会議で毎月1回モニタリングを行っている。担当職員の意見を聞きながら、みんなで検討してプランを作る。家族にも意向を聞いてプランに反映している。6か月毎に見直しをしているが、状態変化の場合はその都度プランの変更をしている。現状に即したプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践など個別に記録している。ケアの統一や、情報収集するために生活記録、行動記録を作成し、都度話し合いを行い実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや、必要な物品の購入など、ご家族が対応できない場合は、施設で対応している。福祉用具が必要になった時や、退院後リハビリが必要な時は専門職に相談して、安心して施設入所が継続するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策により地域への外出など控えているが、感染状況をみて、お寺へのお参りやこども園の行事の見学など日常生活の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医と連携し支援を行っている。また、協力医の宗像医院に毎月1回往診に来て貰って、健康管理を行い、適切な医療提供や相談援助に繋げている。	入居以前のかかりつけ医をそのまま利用することが出来る。協力医は毎月1回往診してくれる。24時間対応出来る体制が取られており安心である。眼科や歯科は家族対応であるが、家族が行けない時は職員が同行し、結果を家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日頃と違う状態や気づきを職場内の看護職又は管理者へ都度相談、記録に残し、協力医とのスムーズな対応、連携に努めている。看護職が確認後、個々のご入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に情報収集のため入院先に連絡をとって退院に備えている。又、その内容をご家族にも報告し、ご入居者にとってBestなケアができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に口頭での説明を行い同意書をいただいている。重度化や終末期についてご本人、ご家族と話し合い入院を希望される際は、かかりつけ医との情報共有を行っている。特養への住み替えについても説明を行っている。	入居時に重度化した場合の施設の対応を説明し家族の同意を得ている。医療が必要となった場合特養への入居を提案している。これまでは看取りを行っていたが、現在は特養や病院への対応が多くなっている。今後の重度化への対応について看取りを含めて研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な状況に応じた急変、事故発生時の対応マニュアルを作成している。業務の中で応急手当や初期対応についての話し合いを行っている。管理者と看護職が緊急時は対応できるよう緊急連絡網を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練の内容に地震・水害対策の訓練を取り入れ緊急時に備える体制を整えている。通報装置、非常口、消火器の位置、備蓄品の保管など、場所の確認もできている。	毎月1回昼夜想定避難訓練を行っている。消防署立ち合いもある。外へ避難誘導し、通報や職員連絡網、水消火器訓練などを行っている。備蓄は各ユニットに3日分水や食料など備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の取り組みに関する研修を毎年行っている。YouTubeでの研修も取り入れレポートの提出を義務付け、一人ひとりの意識を確認している。言葉かけについても業務の中で注意しあえるチームづくりを行っている。	声掛けはさん付けである。ホールのトイレを使用する時はカーテンを閉めて外で待機している。プライバシーの研修はユーチューブで全職員見ることが出来て理解しやすい。後でレポートを提出して学習したことを確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、思いや希望を表すことができる環境づくりに努めている。ご入居者一人ひとりを理解し、表情からも読み取れるよう職員間で意識して介護に当たっている。遠慮なく相談でき自己決定できるよう働きかけている。その時だけではなく、前後の行動も意識し、ご本人の思いが理解できるよう日々取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者がその人らしく過ごせるために、その時々の希望にそった支援を行っている。食事の時間、入浴のタイミングもできる限りその方のペースに合わせて行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりや、その人らしさを大切にしている。化粧やネイルなどおしゃれも楽しませている。ご入居者に「素敵ですね。」「とてもお似合いです。」など声かけも行うよう心掛けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、味噌汁作り、おやつ作りなどご入居者と一緒に行っている。お米とき当番が自然にできご入居者全員に順番がまわるようになった。食器洗いや、お盆拭き、テーブル拭きなども進んで取り組んでいただけている。	毎日のメニューはボードに書いている。利用者も台所に立ち一緒に準備をしたり、おやつ作りは利用者も飾りつけなど手伝っている。テラスでお茶を飲む事もある。ひな祭りや誕生会など行事には特別食が提供され楽しみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫や、栄養士によるバランスのとれた食事の提供を行っている。自力で召し上がれるように食器の工夫もしている。食事量、水分量の記録を行い管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアを行い記録を残している。口腔状態に異常がある場合は、協力医療機関を受診している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあったトイレ誘導を行っている。リハビリパンツへの変更もご入居者の気持ちに寄り添い、ご家族へも相談し了承を得たうえで失禁パンツ(布)からお試しをしたり、その方にあったパットの使用を主任、居室担当者、ADL委員会を中心に検討している。	時間を見てトイレへ誘導している。タイミングを見計らって早めに誘導してパット使用量を減らす工夫をしている。安易に布パンツからリハビリパンツに変えるようなことはしない。パットを使っていたが使わなくなった人もいる。パット使用による皮膚トラブルもなくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤など薬をなるべく使用しないように、定期的な腹部マッサージを施行。水分量upのための水分ゼリーの提供や牛乳やヨーグルトで効果がある方にはご家族に相談、個別購入し提供、便秘の予防と対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者のタイミングに合わせ、毎日入浴介助を行っている。夜間は職員が一人なので要望にお答えできないが、その時に合わせて個々の希望にそった支援を行っている。重度の方にも湯舟に浸かれるようリフト浴を設置している。	週2回の入浴だが希望すればいつでも入浴が出来る。入浴を拒否する時は声掛け方法や時間を変えてみる。浴室は冷暖房が完備していて快適に入浴する事が出来る。リフト浴も可能である。入浴剤や柚、菖蒲などを入れてゆっくりと湯船につかることが出来て利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人らしく生活していただくために、ソファで休んだり、居室で休息できるよう柔軟に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイルし、職員が確認できるようにしている。変更があった場合は目的や副作用など医療連携ノートや生活記録に記入し職員で共有している。変化なども業務日誌への記入口頭での申し送りを行っている。どの職員が取り扱ってもわかるように、薬袋の数など記載、一覧表にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事、コーヒーを入れる、洗濯物などそれぞれのご入居者が得意な事は「持っておいで。」と自信に溢れ役割をもって生活されている。趣味などもいつでも取り組めるよう職員が支援している。気分転換のためにご家族の協力で嗜好品の提供も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、散歩やドライブに出かけている。人が多い場所は、感染対策のため行けていない。協力医療機関以外の受診はご家族が対応してくれている。	施設の付近を散歩して自販機でジュースを買う人もいる。双葉の里やコスモス園へドライブに出掛ける。ベランダでお茶を飲んだり、前を通った近所の人から声を掛けられたりする。利用者と一緒にプランターの花に水やりをして楽しんでいる。病院受診の帰りにドライブすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を金庫で管理し、ご本人の希望に応じて一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話でご家族とやり取りができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに自然光が入るように窓が多く、家庭的で落ち着いた空間になっている。テラスを設置しており外でおやつやティータイムを楽しむことができる。居心地よく過ごせるよう工夫している。季節感を取り入れたご入居者の作品の掲示も行っている。	ホールには光が差し込み明るい雰囲気である。イスやソファが置かれテレビをゆっくり見ることが出来る。テラスではのんびりと景色を眺めながらお茶をすることが出来る。利用者が書いた習字や作品が展示されており、畳の上にはひな壇も飾られて季節を感じることが出来る。空気清浄機や加湿器を設置して、換気などにも気を付け感染対策をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置して自由に座れるようにしている。気の合うご入居者の側へ座り、家事や会話、歌を楽しまれている。玄関の椅子に座り過ごされる方もいて、ご自分の好きな空間を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、ご家族の写真を飾り、居心地よく過ごせる環境作りを行っている。その方にあつた居室作りを行い安全面にも配慮している。居室担当者が環境整備ができるようチェック表を作成し活用している。	これまで使い慣れた小物や家族の写真などを飾っている。テレビやテーブルなども持ち込み見慣れた部屋になるよう工夫されている。トイレや洗面台が各居室に設置されている。個性ある部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、手すりや椅子、バリアフリーの床などにより移動時の転倒やふらつきの回避、楽に起床動作ができるよう工夫が施されている。その人にあつた福祉用具の提供をご家族の協力のもと使用している。居室の入り口には名前を記載し、ご自分で居室を認識して生活できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【グループホームめずらハウスⅡ】

事業所番号	4491100048		
法人名	社会福祉法人芽豆羅の里		
事業所名	グループホームめずらハウスⅡ		
所在地	大分県宇佐市大字下時枝493-2		
自己評価作成日	令和6年2月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に基づき、ご入居者一人ひとりが自分らしく過ごしていただけるよう、ご本人の気持ちに寄り添ったケアを目指している。認知症に関わる研修には積極的に参加し、認知症を理解し、認知症の進行を防止するためにできる事を、常にチームで考え取り組んでいる。また、ご入居者ご自身の不安や困りごとをチームで解決できるよう、情報共有やケアの統一に努めている。便秘が様々な体調不良に関係していることを理解し、水分ゼリーの提供による水分摂取量の増量や、毎日の運動、腹部マッサージ、その人にあった飲み物の提供(牛乳、ヨーグルトなど)をご家族の協力の上行い、自然排便に繋がる工夫をしている。健康管理面では、年2回の定期健康診断や月1回の協力医機関(宗像医院)の往診等で、疾病の早期発見、重症化を防ぐ工夫をしている。すぐに相談できる協力医の宗像医院との連携体制は当グループホームの強みである。日頃から離れて暮らしているご家族に安心していただけるよう、Instagramで日常の様子を動画配信している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームめずらハウスⅠ】に記載

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示、職員会議で唱和するなどして共有している。ご入居者のケアについて困った時は、理念を念頭に置き実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。コロナ禍の影響で近年はあまり参加できていないが、地域清掃、お接待、花祭り、こども園の運動会の見学など、感染状況をみながら、少しずつ参加する機会を増やしている。今後、地域の勉強会にも参加予定。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にめずら新聞を配布し、認知症の施設としてグループホームを紹介している。認知症について地域の方々に少しでも理解して頂き、お力になれるよう、進んで研修を受講している。(認知症リーダー研修修了者2名(現在1名受講中)認知症実践研修修了者3名)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に開催し、日常のご様子や現状を報告している。コロナ禍で暫く書面開催だったが、昨年7月より対面で開催している。写真をとりいれ表情や生活が伝わりやすくなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当者に日頃から連絡を取り、相談している。新しい情報やアドバイス等、協力関係を築き、ご入居者のケアサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、ご入居者の安全を確保するために施錠している。身体拘束については、職員会議、研修、日常のケアを通して説明し、管理者が勤務の時は施錠をしないようにしている。施錠することのデメリットを伝えている。ご入居者の希望があれば都度一緒に外出している。ベッド柵についてもケア会議の中で意見を出し合い身体拘束としないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽チェックリストの活用、そのチェックリストを使って面談や研修を行い虐待防止について意識の向上を図っている。認知症の施設において1人夜勤なので職員のストレス対策にも気をつけている。勤務体制の工夫や職員が悩みを話せる環境作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成している。権利擁護の内部研修を年間計画に取り入れ、実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時に重要事項説明書を用いて説明を行い、新規入居の契約時には、ご入居者とそのご家族に説明を行い、同意を得ている。改定事項があった場合、運営推進会議を通して説明を行い、参加されないご家族には、口頭での説明をし同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのご意見やご要望があった場合、運営推進会議を通して参加者の皆様と情報共有している。運営推進会議でのご意見やご要望などを運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務や職員会議を通して職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に沿った勤務体制になっている。職員の理解があり子育て世代はとも働きやすい環境になっている。職員個々の勤務状況や心身の状況など把握し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を含め積極的に研修に参加する環境作りを行っている。内部研修では、職員が資料を作ったり、外部研修で学んだことを他の職員に伝える復命研修を行うなど、積極性がみられる。また、それぞれが得意分野を活かし、苦手なことも克服しようとしている姿がみられる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会（認知症リーダー研修の受講生や講師など）で知り合った仲間、LINE等を通して交流できている、法人リーダー会では各事業が参加し月一回研修会を行っている。コロナ禍の影響で他施設との積極的な交流はできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の事を知るために、入所時から1カ月間は生活記録表とは別に行動記録表を作成、その都度出現する不安、困っていることに対して全職員が把握し、解決できるよう努めている。ケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの際や、面接調査の際にご家族から、困りごとや不安、ご要望を聞き、サービス計画書に反映している。いつでも相談できるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のご要望にお応えするために、法人内での情報共有を行い、その方にあった支援を見極めている。状況の変化に応じてご本人やご家族の同意の上で他事業所のサービスに繋げることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者のできないことは職員が手伝い、職員ができないことをご利用様から教えていただき、支え合う関係を築けている。裁縫、洗濯、生け花などご入居者から学ぶことが多い。又、感謝の気持ちをお伝えしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策で面会制限があるため、ご家族の事を忘れないように毎日のケアの中でご家族の話をしたり、写真を見て頂いたり、Instagramを活用し、動画配信を行うなどご家族との接触の機会を多く設けるようにしている。面会等のご家族の支えと日常での係わりを重視した施設のケアにより、家庭の延長としてのグループホームの役割を果たすようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会を通して関係が途切れないよう支援している。感染対策で、外出支援に制限はあるが、馴染みの場所を散歩したり、ドライブしたり、入所される前に毎月通っていた店に行くことなど継続を意識している。今後、感染対応が解除されれば馴染みの美容室や、馴染みの人に会いに行くことを計画している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を把握し、食事やレクリエーション時の席など考慮している。自立した方はご自分から気の合う方の側へ行き一緒に生活ができている。高齢で休息する時間が必要な方を除いては、孤立せずにご入居者同士で関わり合えている。コミュニケーションをとるのが難しい方には、職員が間に入ることで支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、他事業所の職員を通して経過のフォローや面会でこれまでの関係を大切にしている。ご家族からのご要望があれば訪問し相談や支援に努めている。ご家族に外出先でお会いした際にはお話をすることもよくあります。協力医療機関でご逝去された際は、エンゼルケアのお手伝いをさせていただいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事の嗜好や、趣味、生活習慣など今までの生活に近づけられるよう思いに沿ったケアに努めている。ご本人にとってどうなのか？を考え検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントを取り情報共有している。日々の会話や活動の中からも情報収集し、記録に残したり、職員会議で情報共有するなど、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録や、医療連携ノート、業務日誌での細かい記録や、職員会議やモニタリングを通して全職員に情報共有し把握に努めている。改善が必要な際は検討協議し、実践につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催しているモニタリングでは居室担当者を中心に、職員の日常生活での気づきや情報を基に話し合いを行っている。ご家族からのご意見も反映し、介護計画を作成している。ご入居者一人ひとりの困りごとの解決を意識して介護に当たっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践など個別に記録している。ケアの統一や、情報収集するために生活記録、行動記録を作成し、都度話し合いを行い実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや、必要な物品の購入など、ご家族が対応できない場合は、施設で対応している。福祉用具が必要になった時や、退院後リハビリが必要な時は専門職に相談して、安心して施設入所が継続するよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策により地域への外出など控えているが、感染状況をみて、お寺へのお参りやこども園の行事の見学など日常生活の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医と連携し支援を行っている。また、協力医の宗像医院に毎月1回往診に来て貰って、健康管理を行い、適切な医療提供や相談援助に繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日頃と違う状態や気づきを職場内の看護職又は管理者へ都度相談、記録に残し、協力医とのスムーズな対応、連携に努めている。看護職が確認後、個々のご入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に情報収集のため入院先に連絡をとって退院に備えている。又、その内容をご家族にも報告し、ご入居者にとってBestなケアができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に口頭での説明を行い同意書をいただいている。重度化や終末期についてご本人、ご家族と話し合い入院を希望される際は、かかりつけ医との情報共有を行っている。特養への住み替えについても説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な状況に応じた急変、事故発生時の対応マニュアルを作成している。業務の中で応急手当や初期対応についての話し合いを行っている。管理者と看護職が緊急時は対応できるよう緊急連絡網を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回の避難訓練の内容に地震・水害対策の訓練を取り入れ緊急時に備える体制を整えている。通報装置、非常口、消火器の位置、備蓄品の保管など、場所の確認もできている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の取り組みに関する研修を毎年行っている。YouTubeでの研修も取り入れレポートの提出を義務付け、一人ひとりの意識を確認している。言葉かけについても業務の中で注意しあえるチームづくりを行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、思いや希望を表すことができる環境づくりに努めている。ご入居者一人ひとりを理解し、表情からも読み取れるよう職員間で意識して介護に当たっている。遠慮なく相談でき自己決定できるよう働きかけている。その時だけではなく、前後の行動も意識し、ご本人の思いが理解できるよう日々取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者がその人らしく過ごせるために、その時々々の希望にそった支援を行っている。食事の時間、入浴のタイミングもできる限りその方のペースに合わせて行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人のこだわりや、その人らしさを大切にしている。化粧やネイルなどおしゃれも楽しまれている。ご入居者に「素敵ですね。」「とてもお似合いです。」など声かけも行うよう心掛けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、味噌汁作り、おやつ作りなどご入居者と一緒に行っている。お米とぎ当番が自然にできご入居者全員に順番がまわるようになった。食器洗いや、お盆拭き、テーブル拭きなども進んで取り組んでいただけている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫や、栄養士によるバランスのとれた食事の提供を行っている。自力で召し上がれるように食器の工夫もしている。食事量、水分量の記録を行い管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアを行い記録を残している。口腔状態に異常がある場合は、協力医療機関を受診している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあったトイレ誘導を行っている。リハビリパンツへの変更もご入居者の気持ちに寄り添い、ご家族へも相談し了承を得たうえで失禁パンツ(布)からお試しをしたり、その方にあったパットの使用を主任、居室担当者、ADL委員会を中心に検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤など薬をなるべく使用しないように、定期的な腹部マッサージを施行。水分量upのための水分ゼリーの提供や牛乳やヨーグルトで効果がある方にはご家族に相談、個別購入し提供、便秘の予防と対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者のタイミングに合わせ、毎日入浴介助を行っている。夜間は職員が一人なので要望にお答えできないが、その時に合わせて個々の希望にそった支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人らしく生活していただくために、ソファで休んだり、居室で休息できるよう柔軟に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイルし、職員が確認できるようにしている。変更があった場合は目的や副作用など医療連携ノートや生活記録に記入し職員で共有している。変化なども業務日誌への記入口頭での申し送りを行っている。どの職員が取り扱ってもわかるように、薬袋の数など記載、一覧表にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事、コーヒーを入れる、洗濯物などそれぞれのご入居者が得意な事は「持っておいで。」と自信に溢れ役割をもって生活されている。趣味などもいつでも取り組めるよう職員が支援している。気分転換のためにご家族の協力で嗜好品の提供も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、散歩やドライブに出かけている。人が多い場所は、感染対策のため行けていない。協力医療機関以外の受診はご家族が対応してくれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご自分で管理し、ご本人の希望に応じて一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参しご家族とお話をしたり、施設の電話でやり取りができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに自然光が入るように窓が多く、外の景色を眺めながらのんびり過ごせる空間になっている。対面キッチンになっており、会話を楽しみながら食事の準備ができています。照明も刺激の少ない暖色系を使用している。畑では季節ごとに作物を育て成長や収穫と一緒に楽しんでいます。外でおやつやティータイムを楽しむ日もあり、居心地よく過ごせるよう工夫している。季節感を取り入れたご入居者の作品の掲示も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置して自由に座れるようにしている。気の合うご入居者の側へ座り、家事や会話、歌を楽しまれている。玄関の椅子に座り過ごされる方もいて、ご自分の好きな空間を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、ご家族の写真を飾り、居心地よく過ごせる環境作りを行っている。その方にあつた居室作りを行い安全面にも配慮している。居室担当者が環境整備ができるようチェック表を作成し活用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、手すりや椅子、バリアフリーの床などにより移動時の転倒やふらつきの回避、楽に起床動作ができるよう工夫が施されている。その人にあつた福祉用具の提供をご家族の協力のもと使用している。居室の入り口には名前を記載し、ご自分で居室を認識して生活できるようにしている。		